

平成 30 年度

第 1 回チャレンジサポート講座 ルーブリック評価に関わる講義

- 1 目的 知的障害のある児童生徒の実態を踏まえ、児童生徒が自ら考え、学びたくなる授業づくりを行うために、ルーブリック評価を取り入れた学習評価の方法について学ぶ。
- 2 日程 平成 30 年 6 月 6 日（水）16：00～17：00
- 3 会場 広島県立呉特別支援学校（ プレイルーム ）
- 4 内容 講義 「知的障害特別支援学校における学習評価」
講師 広島県立教育センター特別支援教育・教育相談部
指導主事 室井 菜穂子 氏
グループ協議



講義の最初に、「本日のゴール：講座の最後に、講座での言葉を一つ以上使って隣の人に説明することができる」というゴールを設定していただき、さらに講義の間にも隣の人と話す機会がたくさんあり、より内容の理解が深まりました。

評価規準		
評価基準	S	
	A	
	B	
	C	

S	期待する様子に、何かプラスαが見られる。
A	期待する様子が見られる。
B	期待する様子は見られるが、未到達な部分もある。
C	期待する様子が見られない。

平成 30 年度から、学習指導案の様式にルーブリックを加えています。今回の演習では、簡単な事例を使ってルーブリックについて実践的に学ぶことができ、ルーブリックについての理解が深まりました。

※ 学習指導案より一部抜粋

- 学習評価の考え方を知る
 - 他校の実践事例を知り、今後の自校の実践に活かす
- という2つのねらいを設定していただき、「評価基準」と「評価規準」との違い等、学習評価について改めて説明していただきました。「ルーブリック」について曖昧な認識の教員も多かったもので、分かりやすく説明していただいたことで、今後の取組への見通しが持てました。